随想④　東日本大震災復興状況視察での気づき

－「百聞は一見に如かず」には続きがあった「幸から皇へ」－

1.　東日本大震災復興状況視察会

令和元(2019)年10月末に、前職「いであ㈱」企画の「東日本大震災復興状況視察会」に参加する機会に恵まれた。視察レポート作成を機として8年ぶりに東北大震災を振り返る中で、若干の気づき等を得ることができた。とりわけ、「百聞は一見に如かず」には続きがあることを初めて知り、第23代土木学会長の青山士が残した言葉

「萬象ニ天意ヲ覺ル者ノハ幸ナリ　人類ノ為メ、國ノ為メ」

との共通点に気づいたときの感動を上記タイトルにて紹介する。

2.　東日本大震災復興状況視察会を終えての気づきと反省

この度、私は震災後8年にして初めて、仙台、石巻、気仙沼等の震災被災地の復興状況等をこの目で見ることが出来た。中でも、気仙沼の「東日本大震災遺構・伝承館」を目にした時の強烈な印象は、近い将来必ず到来する南海トラフ巨大地震の当該地の南紀州を故郷とする筆者には、決して忘れることは出来ない。さらに、陸前高田にて「軌跡の一本松」が目に入った時は、いち早く駆け寄りその姿を見上げてある種感動を覚えた。が、残念ながら樹脂加工か何かで固形保存されたその松には、既に生きものの鼓動はなく、一本松に触れた手の感触も何か寂しいものであった

今回の視察は、ただこの目で見ただけで、被災地の人や関係者の方からの話も一切お聞きする機会が無く、何か物足らない思いで帰途についた。

この時の私の気づきと反省は、以下の通りである。

◎　一見も百聞に及ばぬこともあり　（人々の生の声を多く聴く大切さ）

◎　人の話を心で聴き、そして真実を観る眼（「目で見る」のではなく「眼で観る」）

◎　*耳をもって人の言を聞くことなかれ　（佐藤一斎）*

◎　マスメディアからの情報は鵜呑みにすることなかれ

◎　技術者の原点－対話と体得－

3.　「百聞は一見に如かず」には続きがあった!!

この度の東日本大震災復興状況視察の気づきは先に記したところであるが、「百聞は一見に如かず」と素直な気持ちになれず、この言葉をたまたまネット検索した時に、思いもよらず現れたのが、以下の「百聞は一見に如かず」には続きがあった!!　ことである。

因みに、「百聞は一見に如かず」つまり「百聞不如一見」の出典は、「『漢書』趙充国伝」(ちょうじゅうこくでん)であり、皇帝に敵の勢力を聴かれたときに老将軍の趙充国が答えた言葉とのことである。

3.1　「百聞は一見に如かず」の続きとは

百聞は一見に如かず（人から百回聞くよりも自分で1回見た方が理解早く正確だ）

百見は一考に如かず（いくら自分で多く見ても考えなければ意味が無い）

百考は一行に如かず（いくら多く考えても実行に移さなければ意味が無い）

百行は一効に如かず（いくら実行に移しても効果をあげなければ意味が無い）
百効は一幸に如かず(効果を上るだけでなく、幸せ喜びに繋がらなければならない)
百幸は一皇に如かず(自分の幸せ喜びを越えて、国民・国のためにならなければならない)

聞→見→考→行→効→幸→皇

「皇」とは、「国」「日本」を意味することだと知った。

上記は、後世になっていくつかの続きが付け加えられたとあり、詳細は分からない。

4.　第23代土木学会会長・青山士(あきら)の言葉と公共事業に携わる者のミッション

4.1　青山士(1878～1963)とは

初代土木学会長の古市公威(1854～1934)に続き、日本の近代土木の礎を築き「廣井山脈」と言われるほど多くの人材を育て第6代土木学会会長をも務めた廣井勇(1862～1928)の弟子の一人が、青山士である。

青山の師の廣井勇は札幌農学校の二期生で、内村鑑三と同級生であり青山もまた内村鑑三の弟子でもある。青山は、パナマ運河の建設に日本人として唯一参加した土木技術者で、帰国後は荒川放水路や信濃川大河津分水路の改修工事に携わり、内務省内務技監(1934)を経て、第23代土木学会会長(1935)を歴任している。

青山が指揮した信濃川大河津分水路の改修工事の竣工記念碑(1931)の表面には

*「萬象ニ天意ヲ覺(さと)ル者ノハ幸(さち)ナリ」*裏面には*「人類ノ為メ、國ノ為メ」*

といずれもエスペラント語と共に刻まれている。

4.2　公共事業に携わる者のミッション

青山の土木技術者としての崇高な気概が感じ取れる。この青山の碑文の「幸」と「國ノ為メ」は、青山が知ってか知らずか定かでないが、奇しくも「百聞は一見に如かず」の続きである後半二つのフレーズ「百効は一幸に如かず」と「百幸は一皇に如かず」の一文字の「幸」と「皇」(國)を意味している。この気づきは、極めて感動的であった。

社会に貢献するということは、俗に言う「世の為人の為」であり、今回紹介したまさに「百幸は一皇に如かず」である。

「百幸は一皇に如かず」という崇高な言葉は、私たち公共事業に携わる者のミッションを的確に表しているのではないだろうか。

筆者は、今後この「百幸は一皇に如かず」を拳々服膺してまいりたい。

令和元年 12 月 24 日　初稿

令和８年 04 月 08 日　灌仏会　震災 15 周年にあたり(加筆修正)

特別上級土木技術者［河川・流域］（土木学会）
原　　稔　明